

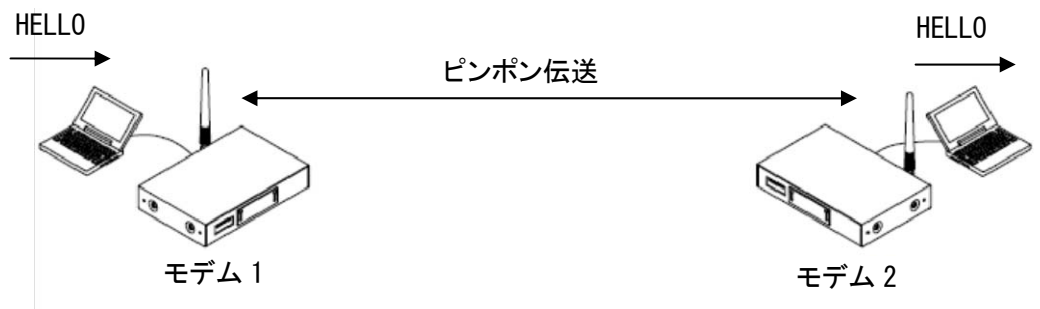
データ透過モード（通信モード 2: 常時接続モード）

1. システム構成

送信するデータをフリーフォーマットで入力して、送信します。

設定はメモリレジスタで行い、1:1 通信のみ可能です。

ペアとなる無線モデムの電源を ON すると、自動的に無線回線が接続され、常時接続された状態になります。



2. スイッチ設定

ディップスイッチは、SW No. 8 のみ ON、ロータリースイッチは、「0」にします。

3. レジスタ設定

パソコンと無線機を RS232C ストレートケーブルで接続して、Futaba Term などのターミナルソフトを使い、REG コマンドでレジスタを設定します。

【モデム 1】

REG00:00H (アドレス 0)
 REG01:F0H
 REG02:01H (宛先アドレス 1)
 REG03:F0H
 REG04:00H
 REG05:00H
 REG06:A3H (周波数グループ: 3 波モード、グループ番号 3)
 REG07:05H
 REG08:11H
 REG09:13H
 REG10:40H
 REG11:32H
 REG12:B4H
 REG13:1EH
 REG14:00H
 REG15:01H (コマンド認識インターバル: 0.1sec)
 REG16:32H
 REG17:32H
 REG18:0DH (データ透過モード、常時接続モード、宛先アドレスチェックを行う)
 REG19:40H (ダイバシティ受信を行う)
 REG20:07H (RS232C: 38400bps, 8bit, パリティなし 1stop bit)
 REG21:09H
 REG22:00H
 REG23:00H

【モデム 2】

REG00:01H (アドレス 1)
 REG01:F0H
 REG02:00H (宛先アドレス 0)
 REG03:F0H
 REG04:00H
 REG05:00H
 REG06:A3H (親機同様)
 REG07:05H
 REG08:11H
 REG09:13H
 REG10:40H
 REG11:32H
 REG12:B4H
 REG13:1EH
 REG14:00H
 REG15:01H (親機同様)
 REG16:32H
 REG17:32H
 REG18:0DH (親機同様)
 REG19:40H (親機同様)
 REG20:07H (親機同様)
 REG21:09H
 REG22:00H
 REG23:00H

《注意事項》

- レジスタを設定する前に、無線機を初期化することをお勧めします。
- 上記レジスタ以外に、全無線機の周波数バンドを合わせる必要があります。周波数バンドは *@FBD* コマンドで設定します。(プログラムバージョン 8.3 以降)
- レジスタ設定を反映させるには、*@RST* コマンド、又は電源再投入を行ってください。
- シリアル通信条件を変更した場合、PC ターミナルソフトのボーレート、パリティ、スタート/ストップビットを設定した値に合わせてください。
- 複数の周波数を使用するグループモード(ここでは 3 波)を使用する場合、再送回数は使用する周波数の 2 乗倍以上の回数にしてください。

4. 通信手順

2 台のモデムの電源を投入すると、無線の接続処理が自動で行われます。
接続が完了すると、LED の“C0”が緑点灯になり、通信が可能になります。

モデム 1 から、モデム 2 への通信

[親機]> HELLO

[子機1]< HELLO

《注意事項》

- 送信データが有る／無しに関わらず、常に電波を出しています。(ピンポン伝送)
- LED はデータを入力していないときは、C0 のみ緑点灯で、それ以外は赤点灯になります。データ入力時は、送信側の SD が緑点灯、受信側は RD が緑点灯して、送信/受信が終わると C0 以外赤点灯に戻ります。
- LED の C0 が赤点灯のときは、通信できません。
- コマンドヘッダは有効です。コマンドヘッダをデータとして送信する場合は、コマンド認識インターバル (REG15) を適切な値に設定してください。詳細は、取扱説明書をご参照ください。